

「With コロナ時代における未来アイデア」応募用紙

○応募者

氏名・法人名・団体名	ピクシーダストテクノロジーズ株式会社
(法人・団体の場合)	
メールアドレス	
電話番号	

募集対象・応募資格適合への同意	<input checked="" type="checkbox"/> 同意します
暴力団関係者（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）に規定する暴力団をいう。）	<input checked="" type="checkbox"/> 該当しません

○応募内容

アイデアの部門を下記から1つ選んで丸（○）を記入してください。	
<input type="checkbox"/> 未来デザイン部門	<input checked="" type="checkbox"/> 未来テクノロジー部門

アイデア名	視覚障害者向けスマホ UI のアクセシビリティ機能開発
-------	-----------------------------

提案の概要（200字以内）
今後、日本の高齢化の進展に応じて Low vision ユーザー（部分的に視覚障害を抱えるユーザー）が増加する事、また、EC の領域については利用ニーズが高いにもかかわらず特別なアクセシビリティ対応がなされていない事を鑑み、「EC における Low vision ユーザー向けの課題解決」を検討したい。

提案に当たっての現状・課題・背景 ※様式自由
現状、日本国内で視覚障害者の正確な数は明らかになっていない。厚労省により行われた最新調査によると、身体障害者福祉法に定義された視覚障害者数は 31 万人だが、眼科医会は視覚障害者を「社会的ロービジョン・失明者」と定義しなおし、164 万人と推計している。いずれにせよ、高齢化の進展とともに視覚障害者が増加することは明白である。前述眼科医会によると、視覚障害者の数は 2030 年に 200 万人に達する。 視覚障害者が日常生活を過ごす上で抱える課題の一つは、情報の障壁である。情報における障壁とは、環境中に存在する視覚情報や、目標物からの情報の獲得における障壁である。この障壁の低減の際は、視覚情報を残存視力により獲得するか、何らかの形で聴覚的もしくは触覚的に把握する必要がある。近年、携帯電話は、スマートフォンがスタンダードとなっているが、一方で視覚障害者向けの操作方法の確立が急務となっている。スマートフォンは、タッチスクリーンという触覚フィードバックの無い平面を操作しなくてはならないため、視覚障害者にとって操作が困難である。

提案を実施することによる効果、提案の実現可能性や実現に当たっての課題 ※様式自由
現在の日本では、少子高齢化に伴い、ダイバーシティ&インクルージョンの重要度がさらに高まって

いる。高齢になるほど身体障害の割合が高まることから、身体障害者数は今後も更に増加していくことが予想される。高齢者がなんらかの身体障害を負った後も、社会参画を続けられるようにする必要を鑑みると、身体的に様々な特徴を抱えた多様な人材が活躍できる環境づくりが急務である。

今回、「ECにおける Low vision ユーザー向けの課題解決」に取り組むことで、高齢による視覚障害が生じていても簡単に買い物ができる ICT インフラ構築を目指し、身体障害者と高齢者の生活環境の改善の一端を担いたい。過去の類似の取り組みでは、ユーザーの意見を取り入れずにプロバイダーが思い込みで開発し、最終的に利用されない成果物が出てくる例が散見されてきた。今回は、視覚障害者・高齢者のコミュニティの開発過程への巻き込みや、彼らにサービスを提供する他企業・自治体との連携も視野に入れ、「使えるものを作る」ことにフォーカスしたい。

#### 提案の詳細 ※様式自由

アクセシビリティ機能の改善・開発案としては以下を検討している

- A. 基本的なアクセシビリティ機能の実装
- B. 商品情報のテキスト記述を支援/啓蒙する仕組みの導入

開発過程に当事者である視覚障害者を巻き込むことで、ユーザー視点のアクセシビリティ機能にする

- 視覚障害者団体と連携し、ユーザーへのインタビューやアンケートを通じてフィードバックを取り込む

※「提案の概要」以下の項目は、適宜記入欄を拡張して構いません。

※様式自由となっている項目は、別ファイル（ワード又は PDF 形式）で提出していただいても構いません。ただし、本応募用紙と合わせて最大 20MB までです。